

令和4年2月10日
208・209会議室

令和4年第3回
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和4年第3回立川市教育委員会定例会

- 1 日 時 令和4年2月10日(木)
開会 午後 1時30分
閉会 午後 2時36分
休憩① 午後 2時25分～午後2時26分

- 2 場 所 208・209会議室

- 3 出席者
教育長 小町 邦彦
教育委員 石本 一弘 伊藤 憲春
嶋田 敦子 小林 章子
署名委員 嶋田 敦子

- 4 説明のため出席した者の職氏名
教育部長 大野 茂 教育総務課長 小林 直弘
学務課長 杉浦 丘美 指導課長 前田 元

- 5 会議に出席した事務局の職員
教育総務課庶務係 笹原 康司 柏崎 彩花

案 件

1 議案

- (1) 議案第5号 令和4年度立川市立小中学校校長候補者の内申について
- (2) 議案第6号 令和4年度立川市立小中学校副校長候補者の内申について

2 協議

- (1) 小・中学校の卒業式、入学式のお祝いのことば(案)について

3 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

4 その他

令和4年第3回立川市教育委員会定例会議事日程

令和4年2月10日
208・209会議室

1 議案

- (1) 議案第5号 令和4年度立川市立小中学校校長候補者の内申について
- (2) 議案第6号 令和4年度立川市立小中学校副校長候補者の内申について

2 協議

- (1) 小・中学校の卒業式、入学式のお祝いのことば(案)について

3 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

4 その他

◎開会の辞

○小町教育長 ただ今から、令和4年第3回立川市教育委員会定例会を開催いたします。

次に、署名委員に嶋田委員、お願いいたします。

○嶋田委員 承知いたしました。

○小町教育長 よろしくお願いいたします。

次に、議事内容の確認を行います。本日は、議案2件、協議1件、報告1件でございます。その他は、議事進行過程で確認を行います。

次に、議事進行について、お諮りいたします。1議案(1)議案第5号、令和4年度立川市立小中学校校長候補者の内申についてと、1議案(2)議案第6号、令和4年度立川市立小中学校副校長候補者の内申につきましては人事案件でございますので、非公開として取り扱いたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 それでは、1議案(1)議案第5号、令和4年度立川市立小中学校校長候補者の内申についてと、1議案(2)第6号、令和4年度立川市立小中学校副校長候補者の内申につきましては、4その他の終了後に、非公開として取り扱うこととさせていただきます。

次に、出席者の確認を行います。大野教育部長、お願いいたします。

○大野教育部長 本日、第3回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長でございます。

◎協 議

(1) 小・中学校の卒業式、入学式のお祝いのことば(案)について

○小町教育長 それでは2協議(1)小・中学校の卒業式、入学式のお祝いのことば(案)について、を議題といたします。

杉浦学務課長、説明をお願いいたします。

○杉浦学務課長 では、協議案件、小・中学校の卒業式、入学式のお祝いのことば(案)についてご説明いたします。

令和4年第1回教育委員会定例会でご協議いただきましたとおり、今年度より名称をお祝いのことばに改めております。お配りしました資料のとおり、小・中学校の卒業式、入学式についてのお祝いのことばを作成いたしました。

1点、誠に申し訳ございませんが、修正をお願いいたします。中学校卒業式の文面についてです。1ページ目の後ろから4行目になります。アメリカ合衆国にあるプリンストン大学と表記をしておりますが、プリンストン大学の誤りです。名門校の名前を間違えまして、大変申し訳ございません。訂正しておわび申し上げます。

今回の内容としましては、小学校の卒業式には、オリンピック競技の女子ソフトボールで13年ぶり2度目の金メダルを獲得した上野由岐子さんの話をしております。また、中学校の卒業式には、早くから気候変動問題に着目し、ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎さんを取り上げております。

小学校入学式の内容につきましては、元気に挨拶ができる子どもになってほしいという願いを込めて、また、中学校の入学式には、チャレンジを大切に、明日への可能性を広げる学校生活となるよう思いを込めた話をしております。

なお、卒業式、入学式いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、お祝いのごときは、会場に掲示をすることを予定しております。

本日この案について、ご協議いただいた後、修正案を作成して、次回の第4回教育委員会定例会において、決定させていただきたいと考えております。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○**小町教育長** 説明、ありがとうございます。これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

石本委員。

○**石本委員** 早速ですけれども、できれば、進め方について、小学校の卒業式、中学校の卒業式、小学校の入学式、中学校の入学式と今、4つの文章があるので、1つずつ区切っていただけると、多分発言もしやすいかなと思うので、できればそのようにお願いしたいのですが。

○**小町教育長** よろしいですか。では、そのように取り扱いたいと思います。

では早速、小学校卒業式につきましてご意見をお願いいたします。

石本委員。

○**石本委員** それでは、これは全体にもいえることなんですけれども、一つ、どうしても子どもたちへの呼び掛けが多いのは分かるんですけれども、皆さんという呼び掛けが、それだけ注目すると、かなりの数がどこにもあるので、こんなに必要なのかなという素朴な疑問が一つです。

それからもう一つ、これは今の小学校の卒業式について、まずお話ししますけれども、昨年も実は少し気にはなったんですけれども、この卒業、お祝いの言葉の中に、今回は、小学校ではソフトボールのお話が出てきますけれども、確かにネームバリューもあって、その年の活躍というのは、みんなが心に残っていると思うんですけれども、一つは特別な人を毎回毎回こういうふうに取り上げる、誰でも知っているとか、ネームバリューもあったり、感動ももちろんそうなんですけれども、そういうことも大事だと思いますけれども、親の願いであるとか、先生方の子どもたちを送り出すという思いであるとか、あるいは登下校のときに見守ってくださっているシルバーの方、例えば旗を振って毎日見守ってくださる、そういう近所の方もいるので、そういう人たちの思いみたいなものも、卒業の場にはいいのかなんて、個人的なことを、すみません、思ったことを申し上げました。

以上です。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 テーマとしましては、何かトピックス的なもの、教育委員会として訴えたいものを一つ何か盛り込むような形で、案をこれまで作っておりますけれども、おっしゃられたとおり、誰か有名な人というよりは地域の人だったりとか、伝えたいメッセージは今後可能性としてはいろいろあるかと思えます。ただ、今回のお祝いの言葉については、このお2人を、いろいろと検討した結果、選ばせていただいたという経過になります。

以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 ご説明ありがとうございます。基本的なところで、お伺いしたいんですけども、掲示をするわけですね、大きさはどのぐらいなのでしょう。つまり、小さいもので、みんながそこで集まって読んでしまうと、かえって密になってしまうのではないかなと思います。それから、もし、そういうことが可能でしたら、例えば教育長が読まれたものをビデオメッセージというような形で、音声だけでも構わないと思うので、そういう形のほうがかえって密にならないとか、それから時間的には短くなるかなという気もいたすのですけれども、小さなもので貼られると、やはり少し見にくいかなと、その辺のお考えを聞かせていただければと思います。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 昨年度も、この掲示については、A3判、この倍にしたものをそれぞれ1枚にして、掲示するような形を取っていたんですけども、このサイズについては、それぞれの学校に、折り目が付かないきれいな形のまま郵送をして、掲示をしていただくということで、この大きさが限界かなと思うのですけれども、これを幾つかに分けて張ることは可能かとは思っております。

委員がご心配の密になってしまう可能性ということで、どうしても掲示してしまえば、そこに人が集まることもあると思うのですけれども、ビデオメッセージというのは、それぞれの学校でも、なかなかその対応が取れるところ、取れない部分もございますので、例えばですけども、こういった伝えたいメッセージについてホームページに掲載をして、多くの人に見ていただけるような、そんな体制も考えながら対応していければとは考えております。

○小町教育長 ほか、ございますか。

小林委員。

○小林委員 今のことに関して、私も同じようなことを思いまして、前回は手紙でと申し上げたのですが、それもちょっと難しいということで、ホームページに載せるというのはとてもいいことだと思います。あと、子どものタブレットにメッセージが届くとか、あとは実際、これを前回掲示していただいて、どのくらいの方に見ただけなのか、どのくらいの時間立ち止まっていたのか、その現状というのを見た方は、この中でいらっしゃいますでしょうか。様子を教えていただきたいのですけれども。

○小町教育長 前田指導課長。

○前田指導課長 昨年度、掲示に踏み切った際には、来賓等の来場をお願いすることが難しいという判断がございましたので、私どもを含めて、会場に足を運んだ者が誰もおりませんので、そういった状況というのを確認できている者は、事務局のほうにはいないということになります。

今回、昨年度のそういった事柄も踏まえて、ただ掲示するだけではなくて、先ほど申し上げたようなホームページ等での公開ということも踏まえて、学校でアナウンスしていただくことによって、そこで滞留する皆さんを減らしたり、あるいは私どもで、そのデータを学校にお送りすることで、学校ホームページに張り付けていただいて、こんな卒業式だったんだということを感じていただけるようにする、そういった工夫というのはできようかと思えますので、そういった声掛けというのを行って、学校の裁量の中でどういうふうに伝えていくかというような工夫ができる余地を残しながら、そういった働き掛けをしていけたらなとは思っているところでございます。

以上です。

○小町教育長 小林委員。

○小林委員 状況は理解いたしますけれども、どういう状態だったのかという情報収集をする必要はあったのかなと思います。それを活かして今年度に結び付けていただけたらと思ったのですが、普通に考えて、これだけの文章を卒業式や入学式に来た方が全部しっかり読むかということなんですね。どうでしょうか。ちょっと難しいのではないかとも思うんですけども、この文章は来賓として、教育委員会として、壇上でご挨拶をするための文章で、話す内容というんですか、そういうことだと思うんですね。

ですので、本当に卒業式や入学式に教育委員会として伝えたいメッセージがあるのでしたら、もっと短く分かりやすく目に付くように何か工夫をされてもいいのではないかなと思いました。

去年、おととしは、臨時の対応ということで仕方がなかったのかもしれませんが、もう3年目になりまして、同じような状況ではなく、ちょっとその方法を考えていただけたらよかったかなと思います。本当にお祝いをする気持ちや、いらっしゃい、よく来たねという気持ちなど、そういうものを伝えたいのだったら、大きい立て看板や模造紙などで、本当に目立つように何行かのメッセージで、そのほうが伝わるのではないかなという気がします。

こういう細かい内容はホームページなどでしっかり読んでいただくことも大事ですけども、ちょっとその方法を考えていただけたらよかったかなと思いました。

○小町教育長 大野教育部長。

○大野教育部長 ご意見ありがとうございます。私どもも、この掲示の対応が今後ずっと続くということであれば、そういう形式も検討しなければいけないかなというのは思っていました。

今回も、少し前に決めていただいた、今回は掲示でやるよ、また来賓も呼ばないよという

ことは、今回のことを決めた中でやっているということで、私どもとしては、会場に行って読み上げるという前提でずっと検討していた内容が、今回こういう形で出たということでもありますので、新しい日常の中で今後はもう掲示でずっといくということになれば、そういう形を検討していかなければいけないと思います。

また、急きょ掲示になったからこういう内容で、では、行ったときはこう読むよという、そういうことは私どもの中で考えたときに、やはり本来行って読むものを掲示しようということで今回はお出ししましたので、そこは小林委員がおっしゃることも分かるのですけれども、そういう形で進めてきております。コロナというのはいつ終わるか分からないし、いつとき収まりかけたこともあったりした中でやっていますので、そこは今回はこういう形で私どもとしてはいきたいと思っております、小林委員がおっしゃったご意見も参考にしながら、今後、新しい日常の中でどうしていくかということは、また議論したいと思っております。

以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

嶋田委員。

○嶋田委員 ご説明ありがとうございます。今、小林委員からもありましたけれども、やはりもう本当に長い一言だと思います。

もちろん読み上げることも検討された中でということは分かりますけれども、今回は掲示するということが決まったわけですから、ホームページに載せるなど、いろいろな工夫をされたとしても、この長さではおそらくほとんどの方は読んでくださらないだろうと、よほど教育委員会に関わりがあった方ですとか、そういう一部の方がちょっと見てくださる程度かなと思います。

この文章を掲示したとしても、教育委員会のお祝いの言葉って長いねで済まされてしまうのが落ちかなと思いますので、やはり読んでいただこうと思ったら、短くするしかないのかなと私は思っております。

それから、これは誰に向けたメッセージなのかというところで、これが子どもや保護者に向けられたメッセージなのであれば、今回は掲示ということですから、学校や地域へのご挨拶やお願いというのは必要ないかなと思います。

それから、これはどういう子どもたちに向けられたものなのかと考えたときに、どちらかというと、困難にも負けずに明るく前向きに仲間と学校を引っ張ってくれたような子どもたちをイメージされているような気がするんですが、実際には対人関係で悩んでいたりと、あまり学校に通えなかったり、頑張れなかった自分に失望していたりという、いろいろな子どもがいると思いますので、そういう子どもやその保護者が読んでも違和感のない内容に、少し表現を変えていただきたいなと思います。

それで、小学校の卒業式のところでいきますと、もう本当に私は、例えば3つ目の段落などは、このコロナ禍の大変な中、よく今日まで頑張ってくれましたね、ありがとうございます一言で

もいいかなと思いますし、素敵な学校をつくってくれた皆さんを誇りに思いますというような形でもいいのかなと思いました。どの段落も短く、半分ぐらいの短さにしても、読んでいただけるかどうかというところだと思います。

上野投手のお話もいいお話ではあるんですけども、今回掲示ということであれば、せっかく考えていただいたのに申し訳ないですけども、丸ごと省いていただくか、最小限にさせていただくかということも、ご検討いただきたいなと思います。

それから、裏面の「4月から」というところで、「諦めることのない探求心」とあるんですけども、私はちょっと諦めることがあってもいいのかなと思うので、「諦めることのない」は要らないかなと思いました。

そして、誰に向けたというところでは、最後のところも、「学校とともに歩んでいただきましたことに感謝申し上げ、お祝いの言葉といたします」ということで、短くまとめたいただけたらいいのかなと思います。以上です。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 ご意見ありがとうございます。全体的に短くというご意見をいただきましたので、その辺については、いったん確認をして、では、どの程度にするのかというところも含めて再度、案のほうに反映させていただければと思っております。

○小町教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 全体的にやはりご検討いただくということでよろしいと思うんですけども、細かいところで、小学校の卒業式では、2ページ目の真ん中辺のところ、「人を大切にすることを常に心掛け」という、「掛け」は平仮名のほうが分かりやすいのかなという気がいたします。細かいところでは、それぐらいです。

○小町教育長 ほか、ございますか。

石本委員。

○石本委員 すみません。同じようなことになってしまうんですけども、私の先ほど申し上げた、特別な人である必要はないのではないかということは、嶋田委員がやはりおっしゃったように、いろいろな状況の子どもがいるわけですね。どの子にとっても大事な卒業の場なので、時代もありますし、そういう配慮もあるといいかなと。頑張れて輝いた、ごく一部の人たちを目指せ、みたいなことは、ちょっと違うと思うので、その辺のご配慮もいただけるとありがたいのかなとは感じています。

以上です。

○小町教育長 ほか、よろしいですか。

小林委員。

○小林委員 細かいことですが、裏面の後ろから2番目の段落で、「保護者の皆様」のところですが、その次の行の「この6年間、お子様を温かく見守り、支えていただいたこと、そして、学校とともに歩んでいただきましたことに感謝申し上げます」というのは、親が子どもを見守って、支えていただいたというのを、こちらが感謝申し上げますというのも、何

か変な話かなというのを、確か去年も申し上げて、そして修正していただいたような気がします。これは、多分過去のものを基に作られていると思うんですけども、去年の最終版は、かなりいろいろ修正が加わってできあがったものなので、それを参考にしていただけると一番いいかなと思うのですが、どうも去年修正したところをまた、読んでみるとまた同じところが気になってしまうので、どれを基にして作られたかなと思いました。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 ご指摘ありがとうございます。昨年度からうまく引き継げていなかった部分もありますので、昨年度のご指摘いただいた部分を含めて、修正してまいりたいと思います。

○小町教育長 ほか、よろしいですか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 では、次、中学校の卒業式です。

伊藤委員。

○伊藤委員 細かいところで申し訳ないのですが、2 ページ目の最後から2 番目の段落のところで、「本校で学んだ日々」というところですけども、その次の行の「はじめとする支えてくださる方々への感謝を」のところが、小学校は「感謝の気持ち」となっておりまして、もし、このままいくのでしたら、「感謝の気持ち」と入れていただいたほうがよろしいかなと思います。

以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

石本委員。

○石本委員 1 ページ目の真ん中辺りになるんですけども、「前向きに学び、仲間や人と人とのつながりの大切さを心から実感しながら」、その後ですね、「この1 年間に、どうぞ自信と誇りをもち」とあるんですけども、ここは、中学校卒業なので3 ではないかと、何もウィルスだけの闘いではなかったはずなので、と思いました。

それから2 枚目ですけども、物理学賞の真鍋氏のお話が出てきて、ノーベル賞の話が出たのなら、自分なりに興味関心を持って掘り下げていくということは、いろいろな可能性が広がるよねという、何かそういう方向が少し欲しかったなど、同じ扱うのであれば、そういうこともできるかなという印象を受けました。

以上です。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 ご意見ありがとうございます。いただいたご意見もまた、ぜひ修正案に盛り込んでいければと思います。ありがとうございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。

嶋田委員。

○嶋田委員 これも本当に短くしてほしいという願いが中心になりますけれども、3 つ目の段落、「保護者の皆様におかれましては」というところは、読み上げるのであればいいのです

けれども、掲示であれば要らないかなと思いますし、その次の段落も本当に極力短く、学校を引っ張ってきてくれた皆さんを誇りに思いますという感じのほうがいいかなと思います。それからノーベル賞の話も入れるとすると本当に短く、最小限にまとめていただきたいですし、丸ごと省略するということがご検討いただきたいと思います。

それから、裏面の中ほどの、「誰にでも心を開いていくオープンマインドの精神」というのは、これも毎回入っているんですけども、なかなか、本当に生徒会で頑張っているようなお子さんだったら、もしかして、私はそういう精神がありますと言えるかもしれませんけれども、本当にごく少数かなと思いますので、入れるとすると、オープンマインドの精神で単体にしていただくか、お互いに認め合うオープンマインドの精神だとか、柔らかい表現にさせていただけるといいかなと思います。

それから、「本校で学んだ日々」の最後のところ、「皆さんがよりよい社会づくり」など、担い手になることを期待するというのはいいいんですけども、それよりは、困ったことがあれば、いつでもまたこの地域を頼ってくださいねと言って送り出してあげるほうが、私だったらうれしいかなというか、中学生ですから、広い社会に放り出されてしまうわけなので、何かあったら相談してねというようなメッセージも、ちょっと一言あるといいのではないかなと思いました。

以上です。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 ご指摘ありがとうございます。前に委員もおっしゃいましたけれども、リーダー的な存在、うまくいったお子さんだけでなく、多くの方にもお伝えできるような内容という視点で、その部分は修正に盛り込みたいと思います。ありがとうございます。

○小町教育長 よろしいですか。

小林委員。

○小林委員 全体を通しての疑問なんですけれども、教育委員会の立ち位置というんですか、これを読んでみますと、子どもたち、それから保護者、そして学校に対してもメッセージが含まれているんですけども、教育委員会としては、その3者に配慮してということで、この内容が作られていると思うんですが、お祝いのことばとして、そこまで必要なのかなというのと思いました。検討をお願いいたします。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 冒頭、教育部長からも話をしたとおり、まずは、今まで会場に訪れて、壇上でお話しするという立場の中から、おっしゃられたとおり卒業生の方にももちろんお話しをするんですけども、参列された保護者や地域の方に向けてのメッセージというの、ここに盛り込んでいたという経過もありますので、今回は掲示をするという方法を取る中で、併せて、その内容を検討させていただきたいと思います。

○小町教育長 よろしいですか。

では、次に小学校入学式、お願いします。

伊藤委員。

○伊藤委員 今、お話がありましたように、以前は告辞だったんですよね。告辞ならば、皆さん、そうやって、子どもたち、保護者、地域の皆様、教職員ということでよろしいと思うんです。でも、今のことばだとすると、ということもあります。

小学校の入学式のこの文章なんですけれども、大きく分けて2つ、子どもたちに言っていることと、保護者の方です。ただ、子どもたちに言っていること、これはこれから1年生に入る子どもたちは読めるんですか。

ですから、同じようなスペースでもいいから、字だけはぼんと大きくして、皆さん、おめでどう。学校には楽しいことがいっぱいあります。お兄さん、お姉さん、先生たちもいます。分からないことがあったら聞いてください。それだけで、子どもたちに読んでもらったら、いいんじゃないかなと。漢字はやはり読めないんじゃないかなと思います。後半はよろしいと思います。このような形でもお祝いのことばでしたら、よろしいかなという気がしながら、読ませていただきました。

以上でございます。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 昨年度もやはり「読めるの？」というご意見をいただいた中で、昨年度は振り仮名を振ったものも用意をして、掲示したという経過もありますけれども、その分、特出しするのか、また、振り仮名を振って、お子様が読むというよりは、どちらかという保護者の方が読んで伝えてもらうという趣旨もあるかと思っておりますので、見せ方については少し工夫をしたいと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。

嶋田委員。

○嶋田委員 今、伊藤委員がおっしゃったような内容で本当に十分かなと思います。

それと、平仮名のことも、保護者の方がこれを子どもに読み聞かせてくださるかといえば、それは甘い考えというか、やはり読んでもらおうと本当に思うのならば、平仮名で短くというところは、本当にご検討いただきたいです。

それから、終わりから6行目辺りに、「子どもたちの『確かな学力』、『豊かな心』、『健やかな体』をバランスよく育むことが求められています」とあるんですけれども、小学校に入学する子どもの保護者が、お友達はできるかな、勉強はついていけるかな、きちんと学校に行けるかなということを心配されているようなタイミングで、さすがにこんなにバランスよくと言われたら、「えっ？」とかなりプレッシャーになってしまうのではないかなと思います。それにバランスよくということ自体が、もうナンセンスな時代に入っていくかもしれませんので、ここはなくてもいいかなと思いました。

以上です。

○小町教育長 杉浦学務課長。

○杉浦学務課長 ご意見ありがとうございます。教育委員会からのお祝いのことばとして、伝

えたいメッセージと受け取る側のお気持ちもあるかと思いますが、どこまでそこを盛り込んでというのは今、即答はできませんけれども、検討させていただきたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。

小林委員。

○小林委員 今のことにしてなんですけれども、昨年度は立川市の教育委員会の教育方針を載せていたような気がします。それなら、こちらがこういうことで教育を進めていますよと伝えたい思いが伝わるのかなと思いました。

○小町教育長 前田指導課長。

○前田指導課長 保護者の皆様に、仮に私どもからお示ししていくメッセージがあるとなれば、年度の学校教育の指針でありますとか、市の教育目標でありますとか、そういった辺りを確かめながら、表現については、いま一度確認してまいりたいと思います。

以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

石本委員。

○石本委員 他の委員からもあったんですけれども、これは、やはり幼稚園・保育園を卒園したばかりのお子さんたちへ向けるメッセージなので、量もそうですし、表記等、表現も含めてですけれども、もう少しやはり工夫されて、分かりやすく、読んでもらえるような、そういう精査をしていただけるとありがたいなと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 では、次、中学校の入学式、お願いします。

嶋田委員。

○嶋田委員 この中学校の入学式の文章は、いい文章だとは思いますが、やはり少し文字数が多いかなというところで、私もどこを削ったものかとは思いますが、2行目の「今日から始まる」という一文ですとか、真ん中の辺りの「思い描いた将来に進む可能性や」といった一文などは、ほかにも似たようなところがあるので、いくらい文章でも、言われれば言われるほど頭に入らなくなってくるようなことはあると思うので、省略できるところは省略していただいたほうが良いと思います。

それから、真ん中辺りの「小学校で培った力を発揮すれば」とあるんですけれども、これもなくていいかなと思います。

以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。

小林委員。

○小林委員 中ほどの、「これからの皆さんの中学校生活には」から始まる、この段落がとてもいいなと思いました。生涯をかけて追究できることに出会えるかもしれない、勉強したことが地域や世の中の課題解決に生かせるかもしれないという、将来の可能性を広げる日々、チ

チャレンジを大切にしてくださいという、この内容がとても、未来に向かって希望を持てるような内容でいいなと思いました。なので、簡潔にそれを表現していただけたらなと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

石本委員。

○石本委員 ささいなことで申し訳ないです。4段目になりますか、「皆さんは、小学校で培った力を発揮すれば」の段落ですけれども、その3行目、「周りの大人を頼ることもできます。辛いことがあったとしても」で、そこではやはり、「いつか」とか「きっと」とか、そのようにしていただいて、振り返ることを目指して、そういうことができるはずだ、それで、たとえば、時間がかかってもいいんだというふうにしていただけると、ちょっとほっとできるかなと思います。

最後に、これもつまらないことですが、最後の2行です。「皆様に対しまして」は、「皆様におかれましては」かと思います。それから、「子どもたちに深い愛情」は、「子どもたちへの深い愛情」かと思います。「愛情を寄せられ」は、「愛情を基にして」、よりよい校風を築いていかれるというふうにされると、すっきりするかなと思いました。以上です。

○小町教育長 では、私からも最後に申し上げたいと思います。

そもそもが、お祝いのことばであろうが、告辞であろうが、教育委員会として卒業する皆さん、それから保護者、地域の皆様に感謝の気持ちを表すということが第一点の主題かなと思っています。

また、いつの卒業式のお祝いのことばだということもありますので、その年度年度のトピックを取り上げて、もう一回、1年を振り返ってということで、例示としてオリンピックやノーベル賞があり、50年に1回あるかないかとオリンピックは言われていますので、そんなことも取り上げたという視点もあるのかなと思っています。そういうのを引き合いに出しながら視野を広げたり、地域に狭めたりという、そういった文章構成になっているのかなと思っています。

いずれにしても、掲示という表現をしておりますけれども、別に江戸時代の高札ではないので、そこで全部読めということではなくて、読み上げないということを掲示と表現させていただければ、伝える手段は、いかようにもあるのかなと思いますし、逆にこれを担任の先生なり校長先生が、いろいろな機会に子どもたちに読み下して、分かりやすく伝えて、こんなことばなんだよということも含めて、事前の卒業式の練習もあるでしょうから、少し早めに送って、少し教育的な配慮も加えていただけると、より子どもたちには届くかなと思っています。

あと保護者の皆様方におかれましては、本当に大変な時期に対して、学校とともに歩んでいただいて、本当に支えていただいたということで、その感謝も含めて、それは地域の人も含めてということで、教育委員会としてはメッセージを伝えたいということでございます。

伝える手段につきましては、掲示というふうにはしましたけれども、読み上げないという流れの中で、さまざまな伝達手段は考えたいと思っています。そういったことを総合的に勘

案して、どこまで短くできるかということは、これから作業としてやらせていただいて、次回が決定ですので、それまでにやり取りというんですか、修正したものをまた送らせていただいて、ご意見をいただいて、最終的なところでまとめて、ご提示という形にまとめていければいいかなと思っております。ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 それでは、2 協議 (1) 小・中学校の卒業式、入学式のお祝いのことば (案) について、は引き続きご意見を賜りながら、最終決定に向けて、調整をさせていただければということで、お願いをいたします。

◎報 告

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

○小町教育長 次に、3 報告 (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について、を議題といたします。小林教育総務課長、説明をお願いします。

○小林教育総務課長 新型コロナウイルス感染症の対応について、ご報告いたします。

まず、新型コロナウイルス感染症対策本部の開催状況でございます。

2月7日以降、第77回を開催してございます。2月7日の月曜日、午後11時から1ページにございます、こちらの3点について、対応の決定等を行ったところでございます。

まず、市内の感染状況等について、3ページをご覧ください。横使いの表がでございます。一番上が令和4年2月ということで、やはりニュース等でも報道されておりますが、非常に感染者数が増えている状況で、2月の3日木曜日が208人という形で、感染者数が一番多くなっております。7日、8日、9日の人数が入っていませんが、176、120、177人ということで、150人以上の感染者が出ているところで、一番下の入院・療養中の患者数も2月9日の水曜日時点は1,647人ということで、毎日その人数が増えているところでございます。

続きまして、小・中学校における新型コロナウイルス感染状況と対応についてです。5ページをご覧ください。と思えます。

まず、一番目にあります小・中学校における感染者数です。こちらは、今年の1月1日から2月4日までを集計してございます。上の段の枠のところ。感染者数です。小学生が合計で205人、全児童数がパーセントでいくと2.39%。中学生が76人、2.03%。合計で281人ということで、パーセントとしては2.28%となっております。教職員も19人感染が判明している状況になります。

2番の小・中学校の学級閉鎖等の状況についてでございます。こちらは感染者の発生状況を踏まえまして、学校保健会の定めたルールに基づき、学校医と相談して、閉鎖の範囲、学年ですとか学級ですとか、期間を決定している状況でございます。

3番目の子どもの学習機会の確保です。

①の登校できない児童・生徒への対応です。こちらにつきましては、タブレットPCを活用した授業配信、双方向型授業の実施、また、課題を配付して回収という形で対応をしている

ところでございます。

②の出勤できない教員が複数発生した際の対応でございます。こちらは、時間割の組み換えですとか、担任以外の教員が授業を実施。また、出勤できない担任に体調不調等がない場合には、教室に担任の代わりに教職員を配置した上で、担任が自宅からオンラインで授業を実施。こういったことで対応をしているところでございます。

続きまして、4番の教職員を対象とした定期的な抗原定性検査についてです。こちらは、今月2月3日付で東京都教育庁から、感染リスクの高い施設の従事者に対し、定期的な検査を実施する制度の拡大により、教職員に対して抗原定性検査を定期的実施する体制が整ったという通知がございました。

この制度を活用するためには、各学校において申し込みや報告、検査実施管理者の選任、そういったことが必要となることから、現在、校長会及び学校保健会と、対応について協議を行っているところでございます。

概要としては、下にございますが、対象者は、常時児童・生徒と接する教職員等。期間については2月7日から3月18日。検査の頻度は週1回程度。費用の負担は東京都。利用方法は、各学校が東京都の専用Webで申し込みを行い、検査は各学校において、研修受講済みの検査実施管理者等立ち会いの下、感染拡大防止措置をとった上で実施。週1回の検査結果について、専用Web上で東京都に報告するという内容でございます。

その次のページの6ページをご覧くださいいただけます。

5番の東京都の大規模接種会場における教職員のワクチン接種についてです。こちらも2月4日付の東京都教育庁から、教職員に対しても3回目のワクチン接種を受けられる大規模接種会場を都内各地に開設した旨の通知がございました。こちらは、大規模接種予約システムで各自自治体が送付する接種券が届き次第、各自申し込みを行うという形でございます。下に、追加接種の実施ということで、開設予定会場5カ所、そういったところで記載がございます。

一番下の表が、先ほどお伝えしました小・中学校における新型コロナウイルスの感染者の発生数ということで、それぞれ1月4日から人数が出ております。1月20日以降から2桁台になって、一番多い日数としては、2月1日火曜日31名という形で、2月4日の金曜日までは合計で300人という形でございます。

昨日までの人数を2月の9日水曜日まで、それを計算したところ、プラス99名になっておりまして、1月から昨日までですと、合計で399名の感染者が発生している状況でございます。

資料1ページ目にお戻りください。そのほかの子ども関連施設等においても、感染者数の報告がございました。まず、ちょうど真ん中がございますが、保育施設等においては、感染者が229人（園児172人、職員57人）、のべ37施設で臨時休園したとの報告があったところでございます。

次のぼちです。学童保育所と児童館、こちらは感染者が51人（児童48人、職員3人）。こ

ちらにつきましては、臨時休所した施設はございません。

高齢者関連施設（特養施設等）です。こちらは約 20 施設で感染が確認、そのうち 6 施設でクラスターと思われる複数の感染が確認されたという報告があったところがございます。

続きまして、7 ページをご覧ください。新型コロナウイルスワクチン接種についてです。内容としましては、3 回目の追加接種、こちらの現況ですとか、今後の見通し等について、こちらの資料のとおり報告があったところがございます。

最後の 8 ページのところに、子ども関係が掲載してございます。ローマ数字の 3 番、小児（5 歳から 11 歳）の接種です。接種券の送付については、ワクチン供給時期は示されているものの、接種方針が明確に決定されていないということで、接種券印刷への着手、早急な接種開始というものが現在課題となっているところがございます。対象者数は 1 万飛んで 500 名でございます。接種方法は集団接種を基本とする方向で、市医師会等と現在調整中でございます。

続きまして、1 枚のコロナウイルス感染症患者発生についての資料をお配りしてございます。こちらは、感染の公表が、27 日から 2 月 9 日に公表したものでございます。先ほどの数字とは若干合計が違いますが、1 月 26 日水曜日から 2 月 9 日水曜日まで感染確定した人数が合計して 280 人となっております。報告は以上でございます。

○**小町教育長** 報告ありがとうございました。これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

石本委員。

○**石本委員** すみません、2 つあります。1 つは 5 ページの 3 番、子どもの学習機会の確保のところの①ですけれども、タブレットを活用して、実際に登校できない児童・生徒、授業の配信ですとか双方向型の授業の実施について、分かっている範囲でいいので、こういう例があるとか、これくらい前には実施できているとか、お答えできるようでしたら、教えてください。

それから 2 つ目ですけれども、4 番の抗原定性検査というのでしょうか、その利用方法のところ、各学校から研修を受講した人が検査実施管理者として立ち会うのだと書いてあるのですけれども、例えばどのような方なのでしょう。養護教諭でなければ駄目だとか、そういうことがあるのでしょうか。その 2 つをお伺いしたいです。

○**小町教育長** 前田指導課長。

○**前田指導課長** まず 1 つ目のタブレット端末を活用した授業配信等についてですが、実施している学校は、小学校でほぼ全校に上ります。中学校においても、対応できる学校は全校対応させていただいているという状況でございます。

ただし、授業を配信するに当たって、授業配信が向いている教科と向いていない教科とがございますし、その時間が適切かどうかという場合もございますし、学校によっては公開したために、その端末を保護者の方がのぞき込んで、授業中の姿勢が悪いお子さんに対して苦情を入れられるというような学校もあつたりして、学校によっていろいろな対応が生じて

いる部分がございますけれども、全校でそういった支援というのは行えている状況でございます。

その一方で、画面上を通して授業を見ることが学習の進みにつながりにくい教科の場合には、課題等を配布して、行っているというところでは、小・中学校全校で、担任がお子さんの顔を見て、分からないところの質問を受けるとか、「今日、あの課題はできたかい？」というやり取りをしますと、そういったことは全校できているというところで、報告を受けているところがございます。

また、抗原定性検査でございますけれども、運用は学校ごとで異なりますが、管理者となり得る方は、Web 上にある動画を見て研修を受けるという形でございますので、養護教諭が手一杯になってしまっているような学校においては、養護教諭以外の者が管理者になって対応することが可能なシステムにはなってございます。

以上です。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 では、ないようでございます。これで、3 報告 (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について、の報告及び質疑を終了いたします。

続きまして、その他に入ります。

その他は、ないようでございます。

では、冒頭でお諮りしましたとおり、1 議案(1)議案第 5 号、令和 4 年度立川市立小中学校校長候補者の内申について、と 1 議案(2)議案第 6 号、令和 4 年度立川市立小中学校副校長候補者の内申について、は非公開として取り扱いますので、傍聴の方は退室をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

午後 2 時 2 5 分休憩

午後 2 時 2 6 分再開

◎閉会の辞

○小町教育長 それでは、次回の日程を確認いたします。次回、第4回教育委員会定例会は、2月25日金曜日午後1時から210会議室で開催をいたします。

これもちまして、第3回教育委員会定例会を終了いたします。

午後2時36分

署名委員

.....

教育長